

専門家の所見でも、ほとんど類例がないとのこと。このような状態で葬られたのにはどんな理由があったのでしょうか？

疫病を患った人だったのか、それとも強い恨みがあったのか…？

長い眠りから掘り起こしてしまいましたが、今のところ我々に災いが訪れていないので呪われたりはしてないようです。

出土遺物

出土遺物の多くは弥生時代後期の土器(甕・ミニチュア土器など)でした。一方、中世の遺物は、陶磁器、土師質土器の小皿、金属製品、鞆の羽口(鍛冶に使われる道具の一部)などが出土しましたが、量も少なく、小破片が多いことから、詳細については検討が必要です。

おわりに

今回の調査の結果、藤が迫城は弥生時代のムラが廃絶して埋まった後、中世になってお城として再利用されていることが分かりました。

さて、弥生時代後期といえば『魏志倭人伝』に書かれた「倭国亂」を、中世と言えば「戦国の世」を思い出します。弥生時代後期と中世という二つの時代を超えた「動乱」の世を懸命に生き抜いた人々の“メッセージ”の一部を今回の調査で垣間見ることができたのではないのでしょうか？



写真10 出土遺物の一部



図3 藤が迫城跡位置図 (1:50000)

東広島市出土文化財管理センター報
東ひろしまの遺跡 Vol.10

発行日 2022 (令和4) 年1月7日
発行 東広島市出土文化財管理センター
〔東広島市河内町中河内651番地7〕
TEL:082-420-7890 〒739-2201

編集 東広島市教育委員会生涯学習部文化課
E-Mail hgh207890@city.higashihiroshima.lg.jp
印刷 一般社団法人
東広島自立支援センター あゆみ

東ひろしまの遺跡 Vol.10

中世の城跡と弥生時代のムラ発見！

ふじ さきじょうあと はちほんまつちょうしゅうりき
藤が迫城跡 (八本松町正力)



写真1 調査区全景 (上から)

黒字：弥生時代 赤字：中世 青字：時期不明

藤が迫城跡は、南条山の南側の裾、標高282m、麓の住宅地から約20m上の低丘陵地に位置する中世(戦国時代)の山城跡です。北から南にのびる丘陵を堀切で区切って独立させた、大きく三段の郭(平坦面)と土塁(堤防状の防壁)で構成されています。

この城跡は南北を結ぶ主要な道を見下ろせる位置にあり、周防大内氏の安芸国における拠点の一つと考えられる曾場が城跡など多くの城を見渡すことができます。敵や味方の様子をうかがうのに最適な城だったと考えられますが、この城の城主が誰であったのかはわかっていません。

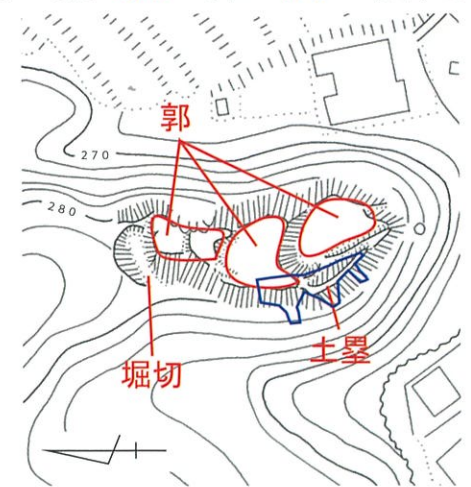


図1 藤が迫城跡略測図

青で囲んだ部分が今回発掘調査した範囲
出典：『広島県中世城館遺跡総合調査報告書』
第2集1994 広島県教育委員会



写真2 調査区からの風景(南西)



写真3 調査区遠景(南から)

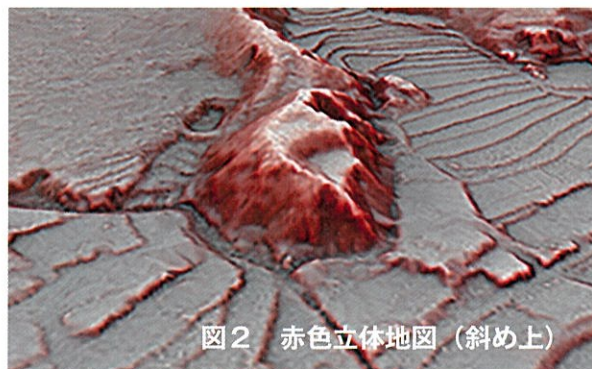


図2 赤色立体地図(斜め上)



写真4 土塁斜面側



写真5 中世の遺構

発掘調査

このたび河川災害復旧工事に伴い、令和3年6月15日から10月15日まで発掘調査を実施しました。調査面積は斜面を含む約1,200㎡で、調査区は二段目の郭の一部と土塁部分のみです(図1)。

今回の調査では中世山城の遺構である郭とそこへの登り口の通路、それを守るように山の斜面を切り出して造られた土塁を検出しました。さらに下層からは弥生時代後期と考えられる円形の竪穴住居が3軒とそれに伴う柱穴や貯蔵穴が確認されました。その他にも金属製品・焼土・炭・土師質土器を含む性格不明の土壙(中世か?)が見つっています。



写真6 竪穴住居3発掘作業風景



写真7 土壙上層発掘作業風景



写真8 土壙下層 石出土状況



写真9 土壙最下層 人骨出土状況

弥生時代の竪穴住居を発見

竪穴住居1と2は調査区の北端に位置し、重なり合っていました。住居からは複数の柱穴、1つの貯蔵穴と壁溝が検出されました。

住居1の床面には炭化物が多く含まれていたことから火事によって焼失した後、住居2への建て替えが行われたと考えられます。

竪穴住居3は直径約7mで住居1より一回り大きく、二本の主柱穴と中央に炉、複数の貯蔵穴と壁溝が検出されました。

人骨が出土

調査区の北西で見つかった土壙から、人骨が出土しました。土壙は楕円形で、大きさは長軸約1.3m、短軸約1.1m、深さ約0.5mです。写真7・8のように20個以上の大小様々な石が見つかり、全ての石を取り除くとその下から人骨が出土しました。

立地や出土状況から中世の人骨ではないかと考えられますが、詳細は不明です。詳しくはこれから専門家による分析や年代測定を行う予定です。

ところで、この土壙を観察すると不明な点が多いことに気づきます。例えば、土壙の形が不整形(段差があるなど掘り方が“雑”)なこと、墓と遺体のサイズが合っていない(狭い土壙に押し込められている)こと、執拗なほど多くの石が詰め込まれている(封印?)ことなどです。